

「函館マラソンボランティア」

～社会貢献活動と生涯学習の基盤づくり～

北海道函館高等支援学校



学校紹介

- 今年開校
- 高等部のみを置く特別支援学校
- 通学型
- 函館稜北高校の教室を活用
- 知的障がいをもつ生徒が対象
- 設置学科
- 普通科 生産技術科
- 食品デザイン科 福祉デザイン科 (全道初)



教育理念

共生社会の中で、豊かな創造性を備える持続可能な社会の創り手、生涯に渡って探究を深める未来の創り手を育成する教育の実現を目指す。ここでの「創り手」とは生徒であり、生涯を支える広義の「創り手」として教職員、保護者、地域などを意味している。

自己と社会をつなぎ、共生社会を創造する教育の追求

学校教育目標

共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成

校訓

- 「探究」：学び働き生きること生涯にわたって探究する人間
- 「協働」：多様性を尊重し、お互いのよさを認め合い協働する人間
- 「健全」：生涯にわたって健やかな心身と豊かな感性を磨く人間

特色ある教育活動

- ①社会貢献活動と生涯学習の基盤づくり
 - ☑函館マラソンのボランティア参加
 - ☐地域・町内会でのボランティア (普通科：公園の除草や石川町会館の清掃)
- ②地域とつながる「カフェ」の運営 (令和2年～)
- ③教科横断的な学習の充実

社会貢献活動と生涯学習の基盤づくり



学校の想い

- 地域でのスポーツ大会の運営に参加
- 「見る・支える・知る」を経験
- 卒業後のスポーツライフや生涯学習へつなげてほしい (「する・見る・支える・知る」)



函館マラソン実行委員会の協力 (外部講師)



- ①大会の特徴や魅力
 - ②参加者・コースの特徴
 - ③評価→改善→運営 (日本一を目指す！)
- 運営に本校も参画・協力していることを実感！

大会の特徴

「地域色あふれる魅力あるフード付録 (メイドスカーフ付)」

参加者の特徴

「2018年度は日本のトップ選手が出場します」

レース後の楽しみ

毎年多くの外国人観光客が訪れている函館観光地第一の「函館公園」でのお楽しみ大会が行われている

函館マラソンの野望

「日本一を目指す」一歩です。

「魅力的な付録」ランニングで3年連続日本一となった函館市で開催されるマラソンが、8位というのはダメです。

●函館マラソンは、2018年度第1回大会の優秀な結果をバネとし、毎年、改善に励んでいます。

→優勝の旗は必ず「日本一」があとと感じ、優勝します！



北海道みんなの日 条例
学校の教育活動を通じて、生徒のふるさと北海道への誇りと愛着を育む

身近な地域とのかかわりを探ったり、その足跡をたどったりする

地域の歴史や文化等に関する、生徒による発表

当日の様子 (スタート)

フル・ハーフ合わせて8000人の参加者が競技場を後にします。

仮装をしているランナーもいます。

当日の様子・感想



- 水を渡すと「ありがとう」と言われて嬉しかった。
- いろいろな人がマラソンに参加しているんだと思った。
- マラソンが、こんなにもきついものなんだと知った。
- すごく疲れましたが、とても楽しめました。
- ランナーはエイドの食べ物を食べられていいなあと思いました。
- 来年もまたやりたい。

自己肯定感の向上と新たな気付き

総合的な探究の時間との関連

探究のテーマ (生徒が自ら設定)

- マラソンコースの課題
- 塩分の必要性
- 長距離を走るための走法
- 千代台公園の歴史
- 地域の魅力的なフード
- 交通規制 など



教科横断的な視点を生かした指導 (一部抜粋)

各教科	普通科	職業学科
社会	スポーツの歴史、報道	マラソンコースをたどってみよう (函館の地図の活用)
数学	ハーフマラソンTOPのタイムランナーの「速さ」を求める (結果タイムと距離から)	距離・速度・ボランティア時間とタオル配布枚数 (10分あたり何枚配布?)
理科	人の体のつくりと働き (呼吸・消化・循環)	
外国語	外国人とのあいさつ 応援や励ます表現	
職業	ボランティアの意義	

今後の課題

- ①教科横断的な視点を生かした指導のさらなる充実 (地域資源を最大限に活かす教育活動)
- ②学年進行でのボランティア内容の調整 (フィニッシュ地点+αの活動へ発展)
- ③探究的視点をもった興味・関心の拡大 (単なる参加ではなく、主体的な姿勢)